

個人情報の「事件」は人々の保護意識を変えるのか？

ーリクナビ事件を例としてー

慶應大学経済学部 田中辰雄

Keywords : 個人情報、プライバシー、リクナビ、クッキー、コンジョイント

1 目的

本研究の目的は、スイカ事件やリクナビ事件などの重大事件が、人々の一般的な個人情報保護意識を高めるかどうかを調べることである。これまでこれらの事件が起きるたびに個人情報の保護が叫ばれ、実際に保護を強化する方向へ制度変更もされてきた。もし、これらの事件で人々の個人情報保護意識が高まったのであれば、政府が制度変更で応じるのは当然である。また、事件によって人々の保護意識が高まるなら、類似事件は今後も起こると思われるので、長期的に保護重視が多数意見になるという予想も成り立つ。しかし、これらの事件が人々の個人情報の保護意識を本当に高めたかどうかは検証されていない。これを試みる。

2 方法

本研究の調査・分析方法は、リクナビ事件の影響の大きい人と小さい人でグループをつくり、そこに差があるかどうかと見る。具体的には、リクナビ事件の時に就活をしていた人としていない人、また、実際に個人情報を使われた人とそうでない人でグループを分ける。二つのグループはリクナビ事件から受けた心理的・実質的損害に差があるので、もし、リクナビ事件が個人情報保護意識を変化させたのであれば、グループ間に差が出てくるはずである。これを検証する。

3 結果

調査・分析の結果、意外なことにグループ間に差は出てこなかった。リクナビ事件の時に就活していた人もしてない人でも、あるいは個人情報を使われた人でも使われていない人でも個人情報保護意識は同じである。この結果は、リクナビ事件は個人情報保護についての意識に影響を与えなかった可能性を示唆する

4 結論

もしこれが事実であれば、制度変更にあたって個別事件を理由づけとして使うのは適切ではないだろう。制度変更はより一般的な調査結果にもとづくべきである。また、保護重視が多数派になるという長期予想も成り立たないだろう。

【主要参考文献】